

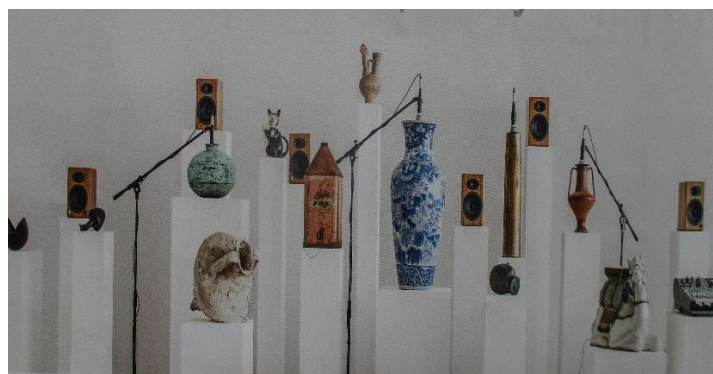
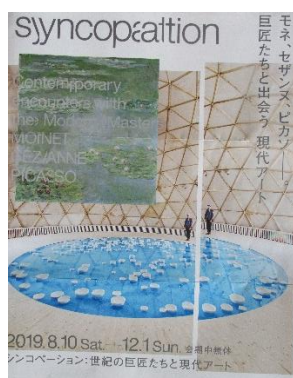
シンコペーション：世紀の巨匠たちと現代アート

モネ、セザンヌ・ピカソ 巨匠たちと出会う現代アート

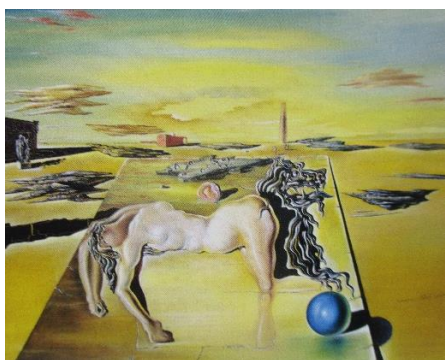
ポーラ美術館(箱根・仙石原) 2019.08.10~12.01

「シンコペーション」(切分音)とは、音楽においてリズムを意図的にずらし、楽曲に表情や緊張感を与える手法のことである。空間全体に広がる「インスタレーション」(壁や床など周囲の環境をも含め、その空間全体を作品とする芸術)、音、映像、野外展示、写真、絵画など、現代の作家たちによる多様な表現は、時代や国を超えて過去の巨匠たちの作品に今日的な光を当て、現代を生きる我々の感覚を揺さぶり、さまざまなリズムをもたらしている。

本展は、当館が所蔵する絵画、彫刻、東洋陶器など多岐にわたる収集品を、現代美術の第一線で活躍するアーティストたちの作品とともに紹介している。



「モネ《睡蓮》1907年 x セレスト・ブルシェ＝ムジュノ《クリナメンv4》2017年」左
「東洋陶器コレクション x オリヴァー・ビア《悪魔たち》(部分) 1027年」 右



「ダリ《姿の見えない眠る人 馬、獅子》1930年」 x 「アリシア・クワデ《まなざしの間に》2018年」

他の展示作品は、セザンヌ《4人の水浴の女たち》x ロダンプリンツ・ゴラム
スーザン・フィリップス《ロング・ゴーン》x 印象派野外の遊歩道などを展示。